

会長挨拶



山形県在宅保健活動者連絡協議会(いつわ会)

会長 水上 由美子

今年度も、いつわ会の事業にご協力いただき有難うございました。

2月6日、東京で都道府県在宅保健師等会全国連絡会に出席いたしましたので、抜粋して報告いたします。

1.「保健事業を取り巻く国の動き」

国民健康保険中央会保健福祉部 主幹 小池 泰明氏
最新の保健事業や健康づくり政策について説明がありました。

2.「高齢者の保健事業について介護の現場から考える～医療専門職の果たすべき役割～」

奈良県生駒市福祉健康部 次長 田中 明美氏
生駒市も後期高齢者人口は、年々増加しているが、介護予防事業の取り組みの成功により、予防給付や介護予防・生活支援サービス事業費な

どが減少しているとのこと。具体的な事業の経過や展開が紹介されました。

3.事例発表は、2題あり、大分県からは、「お元気ですか訪問、高齢者の保健事業と介護予防事業の一体的実施(令和元年9月実施)」、神奈川県からは、「在宅保健師会いちょうの会の活動について～健康劇・特定健診等保険者支援～」の発表がありました。

その後のグループ討議では、それぞれのグループでテーマを決め、活発に話し合いがもたれました。私が参加した班では、防災支援の話題を取り上げ、先進地の取り組みについて進捗状況を聴くことができました。

疾病予防や介護・認知症予防の取り組みのために、在宅保健活動者が地域で活躍することが、益々期待されるようです。そのためにも、私たちが健康で元気で過ごせますように、役に立ちしかも楽しい、いつわ会の事業を進めてまいりたいと思います。

令和2年度も、いつわ会活動へのご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

令和元年度事業(中間報告)

令和2年2月現在

事業名	日時	
役員会	平成31年 4月 26日 令和元年 6月 4日 令和2年 1月 27日	3回開催
いつわ会全体研修会	令和元年 7月 2日	講演、実技
いつわ会ブロック研修会	令和元年10～11月	4回(庄内、最上、置賜、村山) 詳細は本誌2～3頁参照
令和元年度東北地方在宅保健師等会連絡会議	令和元年12月 5日 ～ 6日	山形県より4名出席 詳細は本誌4～5頁参照
会報発行	令和元年 8月 令和2年 3月予定	第1回目 全体研修会等 第2回目 ブロック研修会等
特定健診・特定保健指導受診率等向上対策事業協力	令和元年 6月～ 令和2年 1月	県内17保険者にて19名協力 電話による健診の申込・受診勧奨と未受診理由の聞き取り、保健指導利用勧奨
高齢者地域サロン事業協力	令和元年 5月～ 令和2年 1月	健康講話・実技 (延べ7名協力)
救護協力	令和元年 5月～ 令和2年 2月	球技等運動大会の救護・応急処置 (延べ28名協力)
健康相談協力	令和2年1～3月予定	通所型サービスAに係る健康相談 (延べ14名協力)

庄内ブロック

とき 令和元年10月2日(水)
ところ 鶴岡市総合保健福祉センター
参集者 21名

1 講演「だ液による、がんリスク検査の研究・開発」



講師/
株式会社サリバテック
先端科学技術博士
森 雅代 氏

アンケートから

- 最先端のお話をお聴きし、興味深かった。一部の人が知られていないのが勿体ない。と感じたので中間の話題に提供したい。
- とても興味深く受講しました。とてもおもしろかった。早く保険がきくといいですね。簡単な検査でガンが発見できるのはいいですね。
- 最新の話で興味深く、自分も一度受けてみようかと思いました。

2 情報交換等「いつわ会活動について」

アンケートから

- 大勢なので良い意見が沢山あり参考になりました。
- 酒田地区は新規に会員を増やすことが緊急課題。と改めて感じましたが、どこから風穴を開けるか、真剣に考えてみたいと思います。

3 講義「レセプトからみた庄内地域高齢者の骨折の状況」



講師/
山形県国民健康保険団体連合会事業課
主任
後藤 めぐみ 氏

アンケートから

- 骨折に特化したのがよかった。
- 資料の御準備御苦労さまでした。実態がわかりました。
- 対象データが限られていたため、75歳以上や働いている人など含まれたデータだと興味深かったと思う。

4 講義と実習「女子カアップ椅子に座って簡単エクササイズ」



講師/
ヨガインストラクター
五十嵐 まゆみ 氏

アンケートから

- 最近太り気味な私にはとてもよい講義でした。もっといろいろな呼吸法を学びたいと思いました。
- 姿勢良くなり、家でも実行しようと思った。
- インストラクターの指導がわかりやすく楽しくできてよかったです。



最上ブロック

とき 令和元年10月17日(木)
ところ 最上広域交流センター
参集者 18名

1 実技「誰にでも出来る健康体操」 ～脳トレ・筋トレ・ストレッチ～



講師/
NPO法人アピラ
介護予防指導員
田中 玲 氏

アンケートから

- ユーモアの中にわかりやすく介護予防に役立てます。
- とても楽しく体験できました。筋力の低下、脳の老化を感じさせられました。
- 大変楽しく体操をさせていただきました。徐々に笑ったような気がします。でも自分があまりにも出来なかったのが、これから頑張る運動をやりたいと思います。



2 講義「最上地域の生活習慣病関連データの特徴について」 ～山形県保険者協議会統計データより～



講師/
山形県国民健康保険団体連合会事業課
課長補佐兼保健事業係長
奥山 誉 氏

アンケートから

- 最上地区のデータを客観的に知ることができ認識をあらたにできました。
- 地元の生活習慣の実態を知ることができました。
- 関連データが全体的にみることができました。

3 講演「チームで築こう!最上地方における糖尿病療養支援」



講師/
医療法人小内医院
院長
小内 裕 氏

アンケートから

- 最新のお話を聞くことができました。年々増えつつある糖尿病の人達、チームで関わる事の大事さを痛感しました。
- わかりやすかった。新庄地区に小内先生のような糖尿病の専門医がいてくださり心強いです。
- 目からウロコの新情報満載ですばらしい内容でした。また、別の視点から勉強させてもらいたいです。

置賜ブロック

とき 令和元年11月6日(水)
ところ アクティ米沢
参集者 20名

1 講演「在宅での看取りについて考える」



講師/
医療法人かすかわ醫院
院長
粕川 俊彦 氏

アンケートから

- ちょうど100歳の義母が今その状態にあり、有意義な内容でした。参照になりました。また、施設の方にも今日の事をお話して協力して最後を看取ってほしいと思いました。
- 現在、元気な親も看取りを考えておく必要性を知りました。とても良い機会をいただきました。
- 情報源も理解でき、我が家の介護生活に活用していきたい。

2 講義と実技「心と体のバランスを整える」 ～ヒモトレ講座～



講師/
小関アスリート
バランス研究所(Kab labo.)
代表
小関 勲 氏

アンケートから

- ヒモ一本で楽に体を動かせる、新発見でした。本当に参考になりました。
- 身体のメンテナンスに役立てたい。仕事でも使えそうな事があるので家族の方とも話し合い使ってもらいたい。
- 魔法にかかった様に体が楽になったり、楽しみながら受講できました。今後、ヒモをもとめて実行していきたい。



村山ブロック

とき 令和元年11月12日(火)
ところ 東根市さくらんぼタントクルセンター
参集者 19名

1 講演「緩和ケアについて ～これまでの河北病院緩和ケア病棟での取り組み～」



講師/
山形県立河北病院 緩和ケア病棟
緩和ケア認定看護師
永井 晶子 氏

アンケートから

- 緩和ケア病棟での取り組みを聴いて理解が深まりました。終末を河北病院の緩和ケア病棟で過ごせるのも一つの幸せだと思います。
- 緩和ケアでの看護の経験はないが、肉親の死のとき、いろいろ考えさせられ、今回の研修で答えをもらったようです!
- 在宅医療を推進する上で、緩和ケアの存在を知っていると安心感があり、不安が軽減すると思う。がんの患者さんが大切な時間や生活を過ごすためには、支援してくれる緩和ケアのスタッフに感謝したいです。

2 実技「いつまでも若々しい頭と体のために」



講師/
フリースポーツインストラクター
瀬戸 綾子 氏

アンケートから

- 頭も身体も日頃のサビが少しとれたような気がします。気分転換にもなってとても楽しかったです。“サロン”でも活用できればと思います。ありがとうございました。
- 限られた時間のなかで、うまく組み込まれ御指導いただきよかったです。
- 体がポカポカ、頭も活発化して、とても楽しかったです。



令和元年度 東北地方在宅保健師等会連絡会議 **報告**

と き／令和元年12月5日～6日
と ころ／アパホテル<TKP仙台駅北>

東北6県に新潟県を含めた7県の在宅保健師等会のための連絡会議が宮城県において開催され、53名の参加があり、うち山形県より4名の会員が参加いたしました。

会議内容

1日目

●講演① 「被災者の命を守るためにまず何をすべきか？」

宮城県災害医療コーディネーター
南三陸病院 副院長 西澤 匡史 氏

●講演② 「東日本大震災の経験から —防災・減災に女性の視点で取り組む—」

特定非営利活動法人イコールネット仙台
代表理事 宗片 恵美子 氏

●報告 「都道府県在宅保健師等会全国連絡会 について」

都道府県在宅保健師等会全国連絡会役員
岩手県在宅保健活動者連絡協議会
会長 阿部 恵美子 氏

●情報交換会

2日目

●講演③ 「国民健康保険の動向と 在宅保健師等会への期待」

国民健康保険中央会
調査役 鎌形 喜代実 氏

●グループ討議(A～Fグループ)

●全体会 ・発表 ・助言：国民健康保険中央会 調査役 鎌形 喜代実 氏



報告

幹事 五十嵐 利恵(庄内地区)

「被災者の命を守るためにまず何をすべきか？」というテーマで、宮城県災害医療コーディネーター南三陸病院副院長西澤匡史先生のご講演がありました。

東日本大震災について南三陸町の被害状況のリアルな映像が印象に残り、ショックを隠し切れませんでした。

また、災害医療コーディネーターは司令塔であり、とても重要な役割であることも理解できました。

以下の3点にまとめた内容を報告させていただきます。

まず、1点目、被災者の命を守るために災害関連死をいかに減らすかということでした。関連死の主因は呼吸器疾患と循環器疾患であり、循環器疾患の原因は「血圧上昇」と「血栓傾向」の2つであることが南三陸研究でわかったことです。

災害直後に循環器疾患の発症抑制を目的としたDCAPネットワークシステムを、自治医科大学の遠隔医療支援を受けながらおこなった結果のひとつとして、様々な解析が容易にできるようになりました。これは大きな研究成果であり、災害関連死を減らすことに繋がったと思いました。

2点目は、人口減と高齢化率上昇、要介護認定者の増加が南三陸町における震災後の影響だということでした。そこで、高齢者全般的にもの忘れと運動機能低下に注意が必要であり、「いきいき百歳体操」を医療・介護・地域が繋がりが切れ目のないサポート体制で実践しているそうです。「いきいき百歳体操」については、鶴岡市でも同じだと思ひながらお聞きしました。

3点目は、個人的に災害支援という経験がなかったのですが、いつ災害に遭うかわからない今の時代だからこそ、今回の講演を参考にいつわ会

員として活動していきたいと考えさせられたところでした。

最後に、このような機会を与えていただき感謝申し上げます。

報告

会員 工藤 真理子(置賜地区)

「東日本大震災の経験から防災・減災に女性の視点で取り組む」のテーマで、特定非営利活動法人イコールネット仙台代表理事、宗片恵美子氏の講演がありました。

2003年、男女共同参画に向け設立されたイコールネット仙台は、2008年「災害時における女性のニーズ調査」を実施。

東日本大震災で仙台の避難所生活は4ヶ月に及びました。その中で女性たちの訴えは「洗濯ができない」「着替えができない」「家族同士の話もできない」という基本的な問題の外、「避難所に居る100人の食事作りで、調理室に缶詰め状態」「入浴や洗顔もできず肌荒れがひどい」「セクハラ、暴力も出てきた」「寝るのも食事も同じ空間で衛生状態が心配」「乳児の授乳」「介護が必要な人のトイレに苦労」等、経験した人でないと解らない多くの事例のお話がありました。

避難所は、地区のリーダーで男性のみ、女性のリーダーが居て欲しかったという声が寄せられたそうです。2008年の調査後も、支援活動や調査活動が継続されて、2011年「女性のチャレンジ賞」を受賞、2012年「男女共同復興対策に関する提言」が出されました。(1～6)

- 1 意思決定の場における女性の参画の推進
- 2 女性の視点を反映させた避難所運営
- 3 多様な女性のニーズに応じた支援
- 4 労働分野における防災・災害復興対策
- 5 災害時におけるDV防止のための取り組みの推進
- 6 防災・災害復興に関する教育の推進

2013年、内閣府男女共同参画局より、「男女共同参画の視点からの防災・復興の取組指針」が出されました。地球温暖化により、世界中で大災害がおきています。この会議で東日本大震災を風化させはならない、あの災害から学んだ事を伝えこれからの災害に活かそうと声が上がりました。連絡会議に出席させていただきありがとうございました。

報告

幹事 飯田 陽子(村山地区)

2日目は「国民健康保険の動向と在宅保健師等会への期待」と題して、国民健康保険中央会調査役鎌形喜代実氏の講演から始まりました。少子高齢化と同時にライフスタイルが多様となる中で、誰もが安心できる社会保障制度に関わる会議が開催されている。「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施」の枠組みが各市町村で検討されている。在宅保健師等会の活動状況については、「特定健診・特定保健指導に関する事業」を中心に、「地域活動(通いの場、サロン等)」など地域に根ざした活動が多くなってきている。国保中央会では、国保連合会と連動して、在宅保健師等会が活動しやすい体制構築が図られるよう事業実施に係る支援や情報提供を行っていくとのお話がありました。

10分間の休憩後、「災害支援について」をテーマに5班に分かれ、グループワークが行われました。班の中には東日本大震災で被害に遭われた方や台風で浸水被害を経験した方がおり、その時の様子も聴きました。当時の経験も含めて活発な意見が出されました。発表の中から、支援依頼があり訪問による健康調査や相談等に関わった経緯から、被災者の話を傾聴する大切さ、行政と共有しながら体験を伝えていく事も必要。一方、在宅保健師等会が周知されていない。具体的に出来る事、日々の活動から生かせる場があるはず。様々な所で災害が発生し他人事で無くなっている。どのレベルで関わった方がよいのか、具体的に発揮できる仕組み作りの必要があるのではないだろうか等の意見が出されました。

今回の研修で、歯科衛生士、管理栄養士の役割の重要性が評価されているとの、鎌形先生の話にエールをいただきました。五つの職種、五つの輪で保健事業を支援するいつわ会で、これからも健康づくり活動に協力していきたいと思ひます。

貴重な研修の機会を与えていただきありがとうございました。



県内の動き紹介コーナー

高齢者の保健事業と介護予防の 一体的実施に係る市町村等説明会

高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施に係る市町村等説明会(主催:山形県後期高齢者医療広域連合、山形県国民健康保険団体連合会)が12月17日、県庁2階講堂で開かれた。

各市町村の① 国民健康保険及び後期高齢者医療制度担当② 高齢者保健事業担当③ 介護予防事業担当等130人が出席した。講演で神奈川県立保健福祉大学の田中和美教授は、事業実施にあたっては、庁内横断的な体制づくりと連携づくりが重要であり、市町村の将来像を見すえた「まちづくり」につながる庁内連携を促した。

田中和美教授 講演

前職である神奈川県大和市職員時代に自ら取り組んだフレイル対策事業を事例にあげ、庁内連携の実際、具体的な事業展開について紹介した。

これから取り組む自治体に対しては、「どこから取り組めばよいか、何から取り組めばよいか」先行自治体の成功ポイントをあげ、参考となる道筋を示した。

山形県後期高齢者医療広域連合 事業説明

広域連合の広域計画および第2期データヘルス計画について、今年度は変更しないが、来年度の間評価時に、一体的実施の具体的な内容を盛り込む予定と説明した。

令和2年度委託事業の内容について、必要な要件、今後のスケジュールについて説明し、特に、事業展開においては、既存の介護予防事業等を見直すことが目的ではないと注意した。

山形県国民健康保険団体連合会 事業説明

国保連合会が行う支援について、1.保健事業支援・評価委員会での継続的な支援、2.研修会の開催、3.KDBシステムの活用支援について説明した。

市町村へのマンパワー支援については、これまでと同様、高齢者の保健事業についても、山形県在宅保健活動者連絡協議会(いつわ会)への支援のご希望がありました際には、仲介や情報提供を担うと説明した。

令和2年1月1日現在会員数

年代別

年齢階層別	人数	年齢階層別	人数
40歳未満	0	60～69歳	118
40～49歳	6	70～79歳	60
50～59歳	21	80歳以上	25
		計	230

職種別

	村山	最上	置賜	庄内	合計
保健師	39	19	14	18	90
助産師	9	1	0	2	12
看護師	16	10	9	33	68
准看護師	3	3	3	1	10
管理栄養士	10	4	9	3	26
栄養士	2	0	1	0	3
歯科衛生士	11	3	7	0	21
合計	90	40	43	57	230

会員募集

あなたも
楽しく活動してみませんか?

今までの専門職としての経験を、
自分の住んでいる地域の
健康づくりに役立てましょう。



申し込み、問い合わせは、下記の事務局連絡先まで▼

事務局

〒991-0041

寒河江市大字寒河江字久保6番地 国保会館内
山形県国民健康保険団体連合会 事業課保健事業係
TEL0237-87-8002 FAX0237-83-3353

印刷 コロニー印刷